



Pico Valve

取扱説明書



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度は Jet City Amplification のギターアンプをお買い上げいただき誠にありがとうございます。製品の性能を十分に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。尚、本書が保証書となりますので、お読みになった後は大切に保管してください。

ご使用になる前に取扱説明書をお読み下さい。

1. 梱包を開き、破損した部品や欠品がないか確認してください。異常がある場合は販売店にご相談ください。
2. 感電防止の為、使用中は部品に触れないでください。
3. 各装置の設置を完了させるまでは電源を入れないでください。
4. ヒューズを交換する場合、必ず先に電源プラグを抜いてください。
5. 40°Cを超える環境で本体を使用することはお止めください。
6. 本製品は屋内使用専用です。屋外では使えません。また、雨天や湿気の多い場所での使用はお止めください。火災や感電の原因となります。
7. 本製品はラジエーター、ストーブ等の熱源から離して使用してください。
8. 水などの液体を本体表面にこぼしたり、本体内部にかけたりしないようご注意ください。
9. 電源ケーブルが踏まれたり、挟まれたりしないよう注意してください。
10. メーカーによって供給された付属パーツ以外は使用しないでください。
11. 本体は通気性の良い所に設置し、周囲に可燃物や爆発物を置かないようご注意ください。また、使用中は本体が熱を持ちますので、近くには何も置かないでください。
12. 本体の掃除をする際は乾いた布のみを使用してください。
13. AC100V-120V、50/60Hzにてご使用ください。

故障が生じた場合はお手数ですが販売店にご連絡ください。無断で本体カバーを開けられた場合、保証の対象外となる場合があります。

ようこそ JET CITY へ！

JET CITY AMPLIFICATION のPicoValve をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

THD のデザイナーであるアンディー・マーシャルによって設計され、THD ライセンスを得て誕生したピコ・バルブは、小型でありながら大変優れたアンプに仕上がりました。

ユーザーが自由にパワー管を交換出来るというTHD のユニークな発想。それが、アンプにバイアス調整の必要が無い、殆どの8 ピン・ベースの真空管が使用できるアンプを実現しました。5W/2W切り換えにより、ボリュームを押さえながらフル・パワーのディストーション・サウンドを得ることができます。またトレブル/ミドル/ベースそれぞれの帯域はコントロールツマミで調整可能、プリアンプとマスター・ボリュームつまみを回すだけでオーバー・ドライブのかかり具合を調整できます。アンプユニットは、THD ロゴが記された金属シャーシに納められています。

PicoValve はプリアンプ・ゲインコントロールとマスターボリュームコントロールを装備しており、どんな音量でもお好みの歪みが得られます。

反応に優れたトーンコントロール (Bass, Middle, Treble) と高周波数帯をブーストするBrightスイッチにより、幅広いサウンドが得られます。

複数のスピーカーインピーダンスに対応した出力端子は、各種キャビネットに接続可能です。

PicoValve の特徴：

- ★ユーザーが自由にパワー管を交換出来るというTHD のユニークな発想。
- ★ 1 チャンネル仕様にプリアンプとマスターボリュームを装備
- ★ 5W のチューブパワーが2W に切替可能
- ★ 複数のスピーカーインピーダンスに対応した出力端子

仕様

出力: 5W/2W (切替可能)

チャンネル数: 1 チャンネル

コントロール: Preamp Gain、 Bass、 Middle、 Treble、 Master Volume、 Bright スイッチ

レクチファイヤー: ソリッドステート

真空管: 2x 12AX7 (プリアンプ) / 1x 6L6 (パワーアンプ)

使用可能な真空管 (パワー管、確認済み) : EL34, 6550, KT66, KT77, KT88, KT90, 6V6, 6K6

使用可能な真空管 (プリ管、確認済み) : 12AT7, 12AU7, 12AY7, 12AZ7

スピーカー接続端子: 16Ω x1、 8Ω x1、 4Ω x1

サイズ: 約16.51cm(H) x 31.75cm(W) x 17.78cm(D)

重さ: 6.65kg

電源を入れる前に必ずお読みください!

電源を入れる前に必ずバックパネルのスピーカー出力端子にスピーカーを接続してください。詳しくは本書「スピーカーとインピーダンスに関して」のセクションをご覧ください。

注意: もしスピーカーを接続せずに電源を入れると、出力トランスの故障の原因になります。その場合の修理は保証外となりますのでご注意ください。

まずスピーカーの接続を確認して下さい。電源を入れる際は下記の順番をお勧めします。

1. ギター側のシールドをフロントパネルの入力端子に接続します。
2. [VOLUME]コントロールノブを反時計回り一杯の「0」に設定します。
3. 電源ケーブルをバックパネルのコネクターに接続してから、コンセントに電源ケーブルのプラグを接続します。
4. [STANDBY]スイッチがSTANDBY (下側) の状態になっていることを確認した上で、[POWER] (電源) スイッチをON(上)側にします。最低でも30秒たってから[STANDBY]スイッチをON (上) 側にします。
5. [VOLUME]を上げると音が出ます。

全体的な操作



- ① [INPUT] - この入力端子にギターケーブルの一方を接続し、ケーブルの反対側をギターを接続します。
- ② [PREAMP GAIN] - ゲイン（歪み）を調整します。クリーンサウンドを得るときは低目に設定し、クラッチサウンドを得るには時計回りにお好みのトーンになるまで回してください。
- ③ [BRIGHT] - このスイッチをON にすると高音域をブーストすることが出来ます（アンプの出力を2W にした状態でクリーンサウンドにアンプをセッティングすると、その効果が一番分かりやすくなります）。
- ④ [TREBLE] - アンプの高音域を調整します。
- ⑤ [MIDDLE] - アンプの中音域を調整します。
- ⑥ [BASS] - アンプの低音域を調整します。
- ⑧ [MASTER VOLUME] - アンプの出力レベルを調整します。
- ⑨ [5W/2W] - アンプの出力を切替えます（5W/2W）。
- ⑩ [STANDBY] - スタンバイスイッチは電源を入れる際に[POWER]スイッチと一緒に使います。
[STANDBY]スイッチがSTANDBY（下側）の状態になっていることを確認した上で、[POWER]（電源）スイッチ

をON(上)側にします。最低でも30秒たってから[STANDBY]スイッチをON(上)側にします。

⑪ [POWER] - アンプ全体の電源のON/OFF 切替スイッチです。アンプを移動する際は、必ず電源を切って、電源コードをコンセントから外してください。電源を入れるとスイッチが光ります。



① [電源ソケット] - 付属されている電源ケーブルの両端を電源ソケットとコンセントそれぞれに接続します（ケーブルの端の形状にご注意ください）。

② [SPEAKERS 4Ω] - 4Ωのスピーカーキャビネットへの出力端子です。

③ [SPEAKERS 8Ω] - 8Ωのスピーカーキャビネットへの出力端子です。

④ [SPEAKER 16Ω] - 16Ωのスピーカーキャビネットへの出力端子です。

トーン調整のヒント

ユーザーが自由にパワー管を交換出来るというTHD のユニークな発想。それが、アンプにバイアス調整の必要が無い、殆どの8 ピン・ベースの真空管を使用できるアンプを実現しました。

下記は真空管選択のヒントです：

- ★ 工場出荷に装備されている6L6 の真空管はウォームかつクリアなサウンドが特徴です。

- ★ もっとタイトではっきりした低音を得るには6550 が最適です。

- ★ 6L6 と6550 の間のトーンがお好みの方にはKT66 をお勧めします。

- ★ ブリティッシュ系（ミドルが強調され、かつもう少し歪んだ）サウンドがお好みであればEL34 をお試しください。

その他にも様々なセッティングをお楽しみください！

各ツマミを回して、自分の耳で確かめながら色んなセッティングを試すことが、このアンプの魅力を理解する一番の方法です。是非お試しください！

真空管アンプの基本的な取り扱いと注意事項について

真空管を使用しないソリッドステートアンプは一般の家電製品と同様に、コンセントにつないで電源を入れるだけですぐに使用できます。しかし、真空管アンプはソリッドステートアンプとは構造がかなり違いますので、真空管アンプの使用については取り扱いに注意が必要な事があります。そこでいくつかQ&Aをご紹介します。

① Q :真空管アンプの内部をさわると危険ですか？

A :非常に危険です。電源を切ってもチューブアンプ内に高電圧が流れており、かなり高温になっています。チューブアンプのメンテナンスや修理などは商品をお買い上げ頂きました販売店にご依頼ください。

② Q :真空管の交換は自分でやっても安全ですか？

A :①にあるように、真空管の交換には精密な調整技術と経験が必要となります。お客様自身での交換は故障の原因や火傷のおそれがありますので、調整や修理などはお買い上げの販売店にご依頼ください。

③ Q :どのくらいの頻度で真空管を交換するべきですか？

A :基本的には厳密な期限はありません。毎日アンプを使用したとして、パワーアンプ部で一年に一度ぐらい、プリアンプ部で二年に一度ほどの間隔で真空管を交換するのが目安です。但し、真空管が数年使用できる場合(特にプリアンプの真空管)もありますので、実際にはアンプの出音からコンディションを見て、交換のタイミングを決めた方が良いでしょう。

下記の症状の場合、真空管を交換する事で問題を解決できる場合があります。

- ブーンという音、ハウリングのような過剰な騒音(ノイズ)が出る。
- 高音の音量が小さい、又は高音が出ない。
- 低音がこもっている、全体的にアンプの音がこもっている。
- アンプの音量が安定していない。
- 音が全く出ない。

④ Q :真空管の交換の際バイアス調整が必要ですか？

A : PicoValve は違う真空管を入れても、バイアス調整が必要ないようにデザインされています。使用可能な真空管の詳細は本書の「仕様」セクションをご覧ください。

スピーカーとインピーダンスに関して

全てのギターアンプにはアンプ部分とスピーカー部分の2つの部分があります。コンボアンプの場合、スピーカーがアンプにマッチングされていますが、ヘッドアンプの場合はスピーカーキャビネットを正しく選択しないとイケません。PicoValve はヘッドアンプですので、スピーカー選択の際は、下記のガイドラインに従ってください。

① PicoValve にはどんなスピーカーキャビネットがベストですか？

もちろんJET CITY AMPLIFICATION のスピーカーキャビネットがベストです！JCA12S 1x12 キャビ、JCA24S 2x12 キャビとJCA48S 4x12 キャビは、それぞれJET CITY のアンプの一番良いトーンを出すためにデザインされたものです。

② インピーダンスとは何ですか？ またなぜそれが重要なのでしょうか？

全てのスピーカーキャビネットが Ω （オーム）でのインピーダンス定格を持っており、通常はキャビネットの入力端子周辺に表記されています。インピーダンスのことを簡単に説明しますと、アンプのパワーに対するスピーカーの抵抗です。スピーカーのインピーダンスが高ければ、アンプからのパワーが強くなってはいけません。アンプとスピーカーを同じインピーダンスにするのが、スピーカー選択時の重要点です。

③ PicoValve とはどのような関係がありますか？

PicoValve には「4 OHM」、「8 OHM」と「16 OHM」が表記された出力端子があります。ご使用になるスピーカーのインピーダンスに合わせて出力端子を選択してください。例えば、スピーカーキャビネットに16 Ω が表記されたら、PicoValve の16 Ω 出力端子に接続してください。

スピーカーキャビネット1台を接続するのは比較的簡単ですが、2台以上接続するときは少し複雑です。多くのスピーカーキャビネットには「series」（直列）と「parallel」（並列）と表記された端子があります。この端子でキャビネットを複数接続する事ができます。

直列出力を使う場合、各スピーカーキャビネットのインピーダンスを足すと合計のインピーダンスになります（例：8 Ω スピーカーキャビネット2台を直列出力で接続すると、合計のインピーダンスは16 Ω です）。

並列接続の場合、インピーダンスの計算方法が変わります。ご使用になるキャビネットが皆同じインピーダンスであれば、インピーダンスをキャビネット台数で割ると合計のインピーダンスになります（例：8 Ω スピーカーキャビネット2台を並列出力で接続すると合計のインピーダンスは $8\Omega \div 2 = 4\Omega$ です）。

ご使用になるキャビネットが異なるインピーダンスであれば、全てのインピーダンスを掛け合わせて、それを全てのインピーダンスを足した数値で割ります（例：8Ωスピーカーキャビネット1台と16Ωスピーカーキャビネット1台を並列出力で接続すると、合計のインピーダンスは $8\Omega \times 16\Omega \div (8\Omega + 16\Omega) = 5.33\Omega$ です）。5.33Ωといったインピーダンスの数値になった場合は、それより低い一番近いアンプの出力端子を選択して下さい（例：5.33Ωの場合、4Ωの端子に接続）。

④ スピーカー選択の方法がもっと簡単になりませんか？

なります！下記のリストのようにJET CITY AMPLIFICATION のキャビネットを使用することが、一番簡単且つ最適なスピーカー選択方法です。

PicoValve への接続例：

★ JET CITY 1x12 キャビネット JCA12S x 1 台

キャビネットの16Ω入力をPicoValve の16Ω出力に接続してください。

★ JET CITY 2x12 キャビネットJCA24S x 1 台

スピーカーキャビネットをモノラルモードに設定して、キャビネットの8Ω入力をPicoValve の8Ω出力に接続してください。

★ JET CITY 4x12 キャビネットJCA48S x 1 台

スピーカーキャビネットをモノラルモードに設定して、キャビネットの16Ω入力をPicoValve の16Ω出力に接続してください。

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より1年間有効

■保証規定

保証期間内において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書きに基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。保証期間は通常ご購入日より1年ですが、商品によって異なる場合があります。但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取扱方法が不適当（例：ボイスコイル焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. お客様自身が行った調整や修理作業が原因となる故障および損傷。もしくは、製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことによる故障及び損傷とみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動等）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト、各種パーツ、ギター弦等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. その他、メーカーや代理店の判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の発送や持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、弊社指定の運送会社に限り着払いにて受け付けます。その際、下記RA番号が必要となります。沖縄などの離島の場合、着払いでの受付は行っておりませんので、送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

サウンドハウス宛に商品を送る際は、いかなる場合でもサポート担当より通知されるRA番号を必要とします。また、初期不良または保証期間内の修理における着払いでの運送についても、RA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状に明記して下さい。RA番号が無いものについては、着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はどの便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損失等の損害に関して、サウンドハウスは一切の責任を負いません。

加えて、交換や修理等には当初の予定よりも時間を要することがありますが、遅延に関連する損害についても一切の責任を負いません。また、原則として代替機は、ご用意しておりませんのであらかじめご了承ください。